



横建第五號ノ五二四ノ二

昭和九年十月八日

海軍水路部長殿

横須賀海軍建築部長代理  
海軍技師 住 木 直 二 郎

横補第四〇九號横須賀軍港距離測定儀  
試験標新設位置測量ノ件委託

首題工事本月四日官房第四三二三號ヲ以テ訓令相成候ニ就テハ試験標  
新設位置測量方左記豫算ヲ以テ貴部ニ委託致度經費ハ別途移用手續致  
候

一金壹千圓也 測量費 一式

別圖壹枚添付ス

水機密第二〇二七號ノ二

(終)

海軍

軍務局

膠州機密第九二號

昭和九年十月一日

十月七日

特務艦膠州

昭和九年度第二次豫定測量地点表  
 豫定測量地点並報告整理通信ニ使用スルキ地点番號等  
 左如シ

一 B、一 海洋測量

(一) 洋中ニ於テ採水(M)及流速(K)鐘測(S)等定ル如シ

地点番號	緯度	經度	作業	記事
B 一	二二—四三〇	一六—二二〇	◎	行動時間都合依リB 司リB四也作業ヲ實施スル ル事トスル
B 二	二二—四九〇	一六—二二〇	M	

軍務局  
 9.11.9.  
 第二課

測係



B	二八	二一四六〇	一七三	一四〇	M	
B	二七	二一四七〇	一七三	一四〇	⊙	
B	二六	二一四八〇	一七三	一四〇	M	
B	二五	二一四九〇	一七三	一四〇	M	
B	二四	二一五〇〇	一七三	一四〇	⊙	
B	二三	二一五〇〇	一七三	一四〇	M	
B	二二	二一五〇〇	一七四	一四〇	M	
B	二一	二一五〇〇	一七四	一四〇	M	
B	二〇	二一五〇〇	一七四	一四〇	M	
B	一九	二一五〇〇	一七四	一四〇	⊙	B一八ヨリB二五迄行勳海 ノ都人等依リ附ル位置 ヲ上表更スル事アリ
B	一八	二一五〇〇	一七四	一四〇	M	
B	一七	二一五〇〇	一七四	一四〇	⊙	
B	一六	二一五〇〇	一七三	一四〇	M	

B	四一	五	〃	M	
B	四〇	四〇	〃	M	
B	三九	三〇	〃	M	
B	三八	二〇	〃	M	
B	三七	〇〇	〇〇	Ⓜ	K
B	三六	〇〇	〇〇	M	
B	三五	〇〇	〇〇	M	
B	三四	〇〇	〇〇	Ⓜ	
B	三三	〇〇	〇〇	M	
B	三二	〇〇	〇〇	M	
B	三一	〇〇	〇〇	M	
B	三〇	〇〇	〇〇	M	
B	二九	〇〇	〇〇	Ⓜ	K

B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
五 四	五 三	五 二	五 一	五 〇	四 九	四 八	四 七	四 六	四 五	四 四	四 三	四 二
一 二	一 三	一 五	一 五	一 四	一 三	一 二	一 一	一 〇	九	八	七	六
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四 〇	五 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	二 〇	二 〇	三 〇	三 〇
六 〇	六 〇	六 〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
五 〇	五 〇	六 〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
M	M	(M)	(O)	M	M	(M)	M	M	(M)	M	M	(M)
		K				K						K

B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
六七	六六	六五	六四	六三	六二	六一	六〇	五九	五八	五七	五六	五五
〇	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一
〇	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一五六	一五七	一五七	一五七	一五七	一五七	一五八	一五八	一五八	一五八	一五九	一五九	一六〇
〇	〇	一	二	三	四	〇	一	二	三	四	五	六
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
Ⓜ	Ⓜ	M	M	Ⓜ	M	M	Ⓜ	Ⓜ	M	M	M	Ⓜ
SK								K				

①	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
八〇	七九	七八	七七	七六	七五	七四	七三	七二	七一	七〇	六九	六八
一三	一三	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	三	一
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
◎	M	M	Ⓜ	M	M	◎	M	Ⓜ	M	M	◎	M
			S									



B	八七	二二	一〇	五〇	一五	〇一	四五	〇〇	(M)	
B	八六	二〇	一四	五〇	一五	〇一	四八	〇〇	M	
B	八五	一九	一三	四〇	一五	〇一	五四	〇〇	M	
B	八四	一八	一〇	三〇	一五	〇一	五七	〇〇	(M)	S
B	八三	一六	一〇	四〇	一五	〇一	〇四	〇〇	M	
B	八二	一五	一〇	〇〇					(M)	
B	八一	一四	一〇	〇〇					M	

(備考) M八一〇〇〇米迄 (M) 八一五〇〇米迄

瓶採水 (M) の深層採水を示す

(三) 艦位ニ依ル表面海流測定、地点ヲ豫定セズ航海報告

(二) 海流欄ヲ利用ス

(一) 海流瓶放流ハ毎日の六〇〇、一二〇〇、一八〇〇之ヲ行ヒ実施

順序ニ左ニ如ク番號ヲ附スルモノトス

A 一〇〇〇 — A 一九九九

(四) 水色及透明度

B 一乃至 B 八七地点ニ於テ併セ行フ外横須賀至  
B 一測点及 B 八七測点至横須賀間ハ毎日(二〇〇)実  
施シ B 二〇〇 — 一九九九迄ノ番號ヲ附スルモノトス

二 E 音響音測深

B 地点ニ於テ併セ行フ外大洋航海中 6h 12h 18h 前後ニ  
於テ之ヲ行ヒ実測ノ順序ニ E (ヨリ番號ヲ附スルモノトス

三 C 海水実験

凡テ B 地点ト全一トス

四 D 高層利用海水観測

観測実施ノ順序ニ左ノ如ク番號ヲ附スルモノトス

一) 艦上観測 D 一 — 四九九

1029

(一) 陸上砲測 D五〇一—六九九

本件報告先

海軍省、横須賀鎮守府水測部

(約三)

水機密第2007號ノ三

昭和九年十一月二日

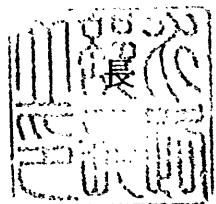
第二課  
第一課



大臣殿



水路部



測量艦任務終了ノ件報告  
軍艦淀及特務艦大和ノ本年度測量作業終了致候

(終)



海軍

永	20	期	係
永		期	係

軍務局

横金機密第 50 號

昭和九年十一月十三日

横須賀鎮守府司令長

測量艦行動豫定ノ件報告

記

官房第一四一一號訓令ニ依ル特務艦膠州ノ行動ヲ左記ノ通豫定致候

地名	着	發
横須賀		十一月十五日
ヤルイト	十二月三日	十二月十三日
ヤルイト	十二月二十七日	十一月九日
ボナペ	十年一月二十四日	二月三日
トラツク	二月十二日	十九日
横須賀	三月七日	

海軍

(終)

軍務局 9.11.15 第二課

別係

軍務局

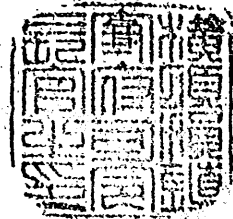
積鎮機密第 四六 號

昭和九年十一月十三日

横須賀鎮守府司令長

大臣 殿

御前



測量艦行動豫定ノ件報告

記

官房第一四一三號訓令ニ依ル軍艦駒橋ノ行動ヲ左記ノ通豫定致候

地名	着	發
横須賀	十二月四日	十一月十七日
パヲ	十二月四日	十二月十日
ウシ	十二月十二日	十月十四日
パヲ	十二月二十七日	十月四日
ヤツ	十年一月六日	八月八日
ウシ	九月九日	十一月十一日
横須賀	十二月二十二日	三月十日
サイ	二月二十一日	二月二十七日
横須賀	三月十日	

海

軍(終)





軍務局第一課第一課長殿  
電務二機密第一八八號  
三

昭和九年十一月十九日

海軍省軍務局第二課長

艦政本部總務部第一課長殿

測量艦改装工事緩急順序ノ件照會

昭和十年度ニ於ケル勝力、駒橋ノ改装工事ニ對スル施行時機並ニ工  
事緩急順序ニ對スル希望別紙ノ通ニ有之候條可然御取計ヲ得度

追テ實行案決定ニ當リテハ詳細打合ノコトニ致度

(別紙添付)

(終)

本件寫送付先 軍務局第一課杉浦局員

海軍 (富井納)

# 別紙

別紙第一

海軍 (當非納)

緩急順序	改裝、施設等	施行時機
一	<p>測量艇搭載設備</p> <p>右ニ對スル附帶工事ノ主ナルモノ左ノ如シ</p> <p>(一) 測量艇、測深儀其ノ他帶造物保護用波除ノ新設</p> <p>(二) 測量員(技生)及船夫室ノ新設</p> <p>(三) 士官室ノ一部改造</p> <p>(四) 測量員(水路部部員及技手)ニ要スル私室ノ新設</p> <p>(五) 其ノ他雜工事(現場説明)</p>	<p>昭和十年 三月中旬至 四月中旬</p>
二	<p>航續力延伸ノ目的ヲ以テ舵取機械ノ電化</p>	<p>成ルベク速ナル時機</p>
三	<p>深海錨泊装置ノ新設</p>	

軍艦胸橋ニ對スル分



軍艦勝力ニ對スル分	
緩急順序	施行時機
一	測量艦ノ搭載設備
二	測量用測深儀(シングスピー式)ノ裝備
三	管聲測深儀ノ裝備
四	船底測程儀ノ裝備
五	發電機取換
六	製圖兼實驗室ノ新設
七	士官(測量任務ノ爲増置)及測量員(水路部部員及技手)ニ要スル私室ノ新設
八	測量員(技生)及船夫室ノ新設
九	艦橋ノ改裝
一〇	前記ノ外水機密第一〇一七號二所載事項但シ機關部ニ關スル分ハ現場調査ノ上實施ノコト
	昭和十年 四月初旬至 五月下旬
	成ルベク速ナル時機



軍務機密第八一八號

昭和九年十一月十九日

海軍省軍務局第二課長

陸政本部總務部第一課長殿

湖盆艦改装工事緩急順序ノ件照會

昭和十年度ニ於ケル勝力、駒橋ノ改装工事ニ對スル施行時機並ニ工  
事緩急順序ニ對スル希望別紙ノ通ニ有之條條可然御取計ヲ得度  
追テ實行案決定ニ當リテハ詳細打合ノコトニ致慶

(別紙添付)

(終)

本件寫送付先

軍務局第一課杉浦扇員

海軍 (當非總)

# 別紙

別紙第一

海軍 (富井納)

緩急順序	改裝、施設等	施行時機
<p>一 測量船搭載設備</p> <p>右ニ對スル附帶工事ノ主ナルモ、左ノ如シ</p> <p>(一) 測量船、測深儀其ノ他帶造物保護用波除ノ新設</p> <p>(二) 測量員(技生)及船夫室ノ新設</p> <p>(三) 士官室ノ一部改造</p> <p>(四) 測量員(水路部部員及技手)ニ要スル私室ノ新設</p> <p>(五) 其ノ他雜工事(現場説明)</p> <p>航經力延伸ノ目的ヲ以テ舵取機械ノ電化</p> <p>三 深海鋪泊装置ノ新設</p>	<p>軍艦船橋ニ對スル分</p>	<p>昭和十年 三月中旬至 四月中旬</p> <p>成ルベク速ナル時機</p>

軍艦勝力ニ對スル分	
繰上順序	改裝、施設等
一	測量艦ノ搭載設備
二	測量用測深儀(シングスピード)ノ整備
三	警響測深儀ノ整備
四	艦底測程儀ノ整備
五	發電機取換
六	製圖兼實驗室ノ新設
七	士官(測量任務ノ爲増置)及測量員(水路部部員及技手)ニ要スル私室ノ新設
八	測量員(技生)及船夫室ノ新設
九	艦橋ノ改裝
一〇	前記ノ外水機密第一〇一七號ニ所載事項但シ機關部ニ關スル分ハ現場調査ノ上實施ノコト
	施行時機
	昭和十年 四月初旬至 五月下旬
	成ルベク速ナル時機

軍務局



第二課  
第一課

一三 一六

一五〇〇  
一六〇五

無

無

澤州 設  
澤州 特務 長

(二〇二七)

大 田  
水陸部長

横領長官

機密第五回番電

本日午後二時作戦地帯第二期調査ヲ開始ス。

一六一一四〇〇



軍務局

軍務局



九 一 二 二 六

一 七 〇 〇  
一 八 三 四

無 線 膠 州 發  
着 (一六八四)

膠 州 特 務 艦 長

大 臣 横 鎮 長 官

總 長、水 路 部 長

機 密 第 五 七 番 電

本 日 午 後 三 時 四 十 五 分 ヤ ル 卜 港 着

爾 今 行 動 豫 定 ヲ 二 日 繰 上 グ。

第 二 課  
第 一 課



二 六 十 一 七 〇 〇

海

軍

(富井納)



1041

外

母

重

起案算紙(乙)

1041-2

軍務局第二課

馬橋橋長

一ノ九

昭和九年十月二十六日 横須賀

馬橋 艦長

海軍省軍務局長殿

書類一件送付

一 任務行動報告

(列冊添)

一部 (終)

大分宛 一ノ九

馬橋 一ノ九

海軍



昭和九年度第一次

軍艦駒橋任務行動報告

目次

第一	任務行動ノ概要	一
第二	教育訓練ニ関スル事項	九
第三	役務定員修理改造其他ニ関スル事項	一一
第四	測量ニ関スル事項	一五
第五	航海ニ関スル事項	二九
第六	運用ニ関スル事項	四一
第七	通信ニ関スル事項	四四
第八	機関ニ関スル事項	五三
第九	醫務衛生ニ関スル事項	六三
第十	會計給與ニ関スル事項	七〇

年月日	九、四、五
發令者	横濱實業守 府司令長官
本文	<p>測量任務ニ關スル件命令          凡記ニ依リ測量ニ從事スベシ</p> <p>記</p> <p>一 期間 本年四月ヨリ昭和十年三月迄</p> <p>二 測量海面 南洋群島及北洲東ノ海面至白令海</p> <p>三 其他 (一) 測量ノ細目ニ關シテハ水路部長ノ指揮ニ受クベシ          (二) 行動ノ豫定ニ報告スベシ</p>
九、五、三	<p>水路部長</p> <p>測量ノ件訓令</p> <p>一 貴官ハ凡記測量任務ニ從事スベシ</p>

第一 任務行動ノ概要

一 測量任務ニ關シテ受ケタル命令並ニ訓令

二 行動豫定

前項命令並訓令及水ニ機密第八號(昭和九年度駒橋第一次測量ニ関スル細項依命通知)↓本文略(別圖第ニ基キ行動補給等ヲ凡

<p>記</p> <p>(イ) 測量 第一次測量 千島列島勘察向今津西海洋ニ氣象測量</p> <p>期間 六月上旬至十月上旬</p> <p>第二次測量 南洋群島方面海洋及氣象測量</p> <p>期間 土月下旬至二月下旬</p> <p>(ロ) 輸送 第一次測量際壘山氣象觀測所要スル人員及器材輸送</p> <p>二 測量實施ニ関スル細項(第三課長ヲシテ通知セシム</p> <p>三 努力ヲ水路及航空路資料ヲ蒐集提出スベシ</p> <p>四 各次測量毎ニ行動ヲ豫定シ報告スベシ</p>	

通り豫定セリ

昭和九年度第一次測量行動豫定

日	發	着	記
三	横須賀	千島列島	千島列島至勸察加南部沿岸作業地
八	壘山沖	壘山沖	測量器材陸揚便乗者退艦
二七	釧路	釧路	勸察加西部至千島列島沿岸作業地 補給
二四	大湊	大湊	経度八〇度ニ至ル「アリューシャン」群島南側作業地 補給
二七	青森	青森	「アリューシャン」群島「バリーング」海作業地
一〇	釧路	釧路	「アリューシャン」群島「バリーング」海作業地
一七	釧路	釧路	「コマンドルスモー」列島方面「バリーング」海作業地

三

九	六	大漆	補給
九	六	漆	函館
一	三	函館	
一〇	三	横須賀	

干島列島勘察加南部沿岸至東経一七〇度太平洋作業地

備考 天候其他都合依り豫定ヲ変更スルコトアルベシ

三、行動前実施セル主ナル準備事項

(1) 入渠 自四月十六日 至四月二十三日 横須賀第一船渠ニ入渠艦底

塗換、錨鎖、推進器、音響測深儀等ヲ行ヒ艦底測程儀ヲ装備ス

(2) 湾外出動 五月二十三日 凧揚実験(新設)〔浦賀水道ニ於テ〕

五月二十三日 音響測深儀実験〔全 右〕

五月二十四日 艦底測程儀公試(新設)〔全 右〕

五月二十五日 自差測定〔全 右〕

## 四 經過ノ概要

## 第一回行動(第一番ABC)

五月三十一日横須賀出港六月一日ヨリ既ニ霧ニ會ス。天候靜穩ニシテ作  
業順調ニ經過シ干島列島東側ヲ北上六月六日「ロック」岬沖ニ達ス  
細雨濃霧ノ為視界ヲ阻マレ全岬沖合ニ於ケル作業ヲ断念シ壘山ニ向

五

- (3) 搭載作業 五月三十日迄ニ各料需品ハ各四乃至五ヶ月分燃料糧  
食ハ前記行動豫定ニヨル補給ヲナスモノトシテ各相當量ノ搭載ヲ了ス。  
移送測量器材ハ艦側渡シテ艦内格納ハ全部之ヲ艦員ノ手ニテ行フ。  
重量合計十四噸余個數大小共三百十七個五月二十九日之カ積込ミヲ終  
レリ
- (4) 其他 氣象測量用トシテ後甲板ニ風揚機械新設後部旗竿  
其他改造及水素瓦斯容器格納所ヲ新設ス

ヒタルモ霧、為陸岸に接近スル能ハズ洋中ニ假泊セリ六月八日霽間ヲ見  
 壘山神ニ進入直ニ托送品陸揚開始翌九日、當地方稀ナル好天  
 ラ利シ總員ヲ以テ一挙ニ陸揚作業ヲ終了シ重要品、觀測所内ニ運  
 搬セリ、六月十日壘山發、濃霧、為占守海峡通過ヲ止シ幌筵島  
 南方ヲ迂回シテ十日阿賴度島東側新生火山、高程測量ヲ行フ  
 終リテ再ビロバツカ沖ニ向ヒ暫時霧、霽間ヲ待テシモ遂ニ同岬燈台ヲ  
 認め依リテ引返シル後千島列島西側、觀測ヲ行ヒ南下シテ六月十六日  
 釧路ニ入港セリ。

第三回行動（第三番ABC）

六月十三日釧路出港豫定、如ク行動六月三十日經度百八十度ニ達セリ  
 此回概ネ計劃通り行動作業ヲ行ヒ七月十日午前五時十五分也  
 丹島出埼、南ニ六度西四湊ニ達シル後同島南方海面、二百米界ヲ  
 探測シ十二日午前八時大湊入港



第三回行動（第四番A B C）

八月十八日午後一時青森出港以来天候静穏作業順調に経過し  
途中北緯四十五度三十九分東経百五十八度一分箇所於て  
観測ヲ行ヒ二十五日「アカツツ」島「アルカ」島間ヲ此航過シ二十六日経度  
計テ度ニ到達セリ此間途中霧ニ會スルコト少ク作業意外に進捗  
ニ爲更ニ観測區域ヲ東方ニ擴ゲ「プリピロ」諸島西方北緯五十六度  
二十分西経百七二度四十分ニ達シ尔後西航航程於テ七百四十一哩海洋観  
測於テ八回ノ増加ヲ見白令海中部以南全區域ニ亘ル観測ヲ行ヒ  
八月九日釧路ニ入港セリ

第四回行動（第五番A B C）

八月十六日釧路出港十九日午後四時三十分北緯四十五度三十分東経  
百五十七度五十六分地点ニ達シ前回は観測セル箇所破浪ニ併所  
中心トスル約三十五哩平方地域ノ探測ヲ施行ス二十五日最北測点  
セ

「ヨンドルスキー」島北方（北緯五十五度五十三分東經百六十六度八分）ニ達シテ後  
 勘察加及千島列島東側ノ觀測ヲ行ヒ二十八日午前十時北緯四十八度四十分東經百五十五度四十分ニ到リ全地点ヨリ南西方約九十六哩ニ亘ル  
 淺水海域ノ探測施行最淺水深八十九米ヲ有スル海底山脈ノ概貌ヲ得  
 タル後九月四日大湊ニ入港セリ

### 第五回行動（第六番ABC）

九月十三日函館出港尔後天候不良十五日擇提海峡通過「オホツ  
 シ」海ニ入り予定ノ觀測ヲ施行再ビ阿頼度島東側新成火山ノ測量ヲ  
 企テシモ果サズ九月十八日太平洋作業地ニ移ラントシテ千島列島東方  
 海面ニ出テシモ猛烈ナル颱風日本南西方海面ニ於テ北東ニ轉ジ益々暴  
 威ヲ振ヒツアリシヲ以テ之ヲ避クル為及ビ第一回行動ニ於ケル残りノ作業ヲ  
 果ス為占守海峡ヨリ「オホツシ」海ニ入り勘察加南西沖ニ假泊ニ十三日  
 颱風通過ヲ見定メテ後假泊地發予定作業ヲ完了シ尔後一路横

須賀ニ向ヒ十月三日午前九時横須賀ニ入港セリ  
全行動ヲ通ジ航海日数七十七日十九四時碇泊日数十七日〇六時總航程  
一七〇五〇哩ニ及ベリ

## 第二 教育訓練ニ關スル事項

教育年度初頭ニ於テ部下一同ニ訓示セシ通リ

ノ精神教育方面ニ於テハ

從來一部ノ者ニ於テ有ル測量艦ノ任務ニツキテ下ノ力持チタル氣分  
ヲ掃シ吾人ノ任務ハ艱近益々重要性ヲ認識サレ来リタル北洋開拓  
ニアルヲ自覺セシノ協力一致事ニ當ルベキヲ強調徹底セシメタリ  
教育ノ実施ニ當リテハ徒ラニ空理想論ニ走ルヲ避ケ日々ノ生活ニ即シ  
自ラ敬神崇祖ノ念ヲ起シ以テ志操ヲ堅實ナラシムル如ク指導セリ

九

る技能教育方面ニ於テハ

本艦ノ任務タル測量作業ニ就テハ間然スル所ナキ程度ニ之ガ練達ヲ見タリ各科配置教育ニ就キテハ忙中努メテ之ガ機會ヲ作り以テ諸檢定ニ良好ナル成果ヲ收メ部署教練ハ之ヲ施行セバ必ズ之ガ講評ヲ行ヒ尔後ノ研究ヲナサシメタリ

### 3. 体育ニ就テ

長期間ニ亘リテ單調ナル行動作業ヲ繼續スル本艦ニ於テハ体育ハ乗員ノ健康ヲ保持シ士氣ヲ清新ナラシムル上ニ於テ極メテ有効必要ナルモノナリ。従来本艦ニ於テハ烹炊用ノ揚水作業ヲ為シ別科時間ノ全部ヲ費ササレ可カラザル状況ニアリ体育ハ自然之ヲ行フ機會少カリシラ今次行動中日課ヲ少シク変更シ一年後始業ヲ十五分早メ課業止メテ三十分繰上グ以テ体育ノ時間ヲ作り銃劍術・劍道・柔道・相撲ヲ課シ行動ノ終期ニ於テ之ガ競技ヲ施行セル所技術ノ上達目覺マシキ

モアリ乗員、氣風又一新セラレ、潑刺、氣艦内ニ漲レリ

寄港地在泊中ハ陸上運動ヲ奨励セル所、各員熱心ニシテ、第二面釧路  
ニ入港セル際之ガ査閲ヲ施行セルニ、技柄又著ク進歩跡ヲ示セリ、  
以上、外航海中、后甲板ニ水子鉦ヲ備ヘ、隨時使用センメタリ、

4. 行軍

行軍ハ乗員ノ見聞ヲ擴メ、方軍隊ノ威容ヲ部外者ニ示ス上ニ於テ  
効果アルモノナラシムラ、以テ寄港地在泊中、尤記行軍ヲ施行セリ

第一面釧路在泊中

春採湖行軍

(片道約ニ斤半)

青森在泊中

合浦公園行軍

(〃 四斤)

函館在泊中

五稜廓行軍

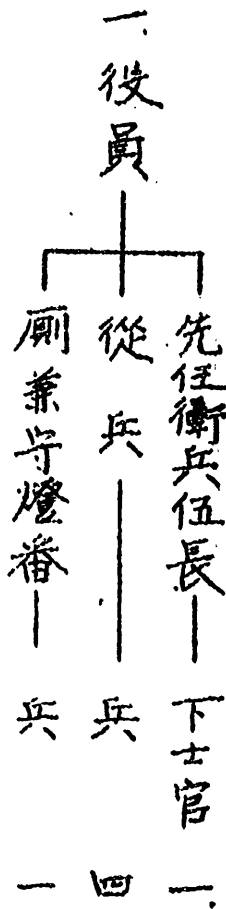
(〃 四斤)

第三、役務定員修理改造其他ニ關スル事項

一定員に關スル事項  
艦内測量班の編制



乙. 測量班 電信員 信號員 除キタル兵科 下士官 兵 配員



二 操帆員助手

下士官 六

三 航海當番

通信 一兵

五

傳令兼當番 一兵

五

予 將承同一役務ニ服スル場合ニ要スル兵科臨時増置員ノ數

(一) 信號員一名 ↓ 規定員四名ニシテ航海日數多ク本艦ニ於テハ相當勞力

大ナルモノアリ 今期行動中信號員於テ一名ノ休業患者ヲ出シタル場合

於テ數日間三直タリシコトアリ 其ノ勞力過大ナルヲ思ヒ助手ヲ出サシメ

スルモ助手ヲ出カス時ハ亦航海當番ニ於テ甚ダシク無理ヲ生カ今回ハ如キ

長期行動ニ於テハ假令信號員中患者出ツルコトナラトモ更三名ノ増員

ハ必要ナルト認ム

(四) 電信員一名 ↓ 電信員モ亦規定員四名信號員ノ如ク當直中

通シタルコトハナキモ相當勞力大ナルモノアリ 且ツ今回ノ如ク終始霧中航行

ヲ行フ場合ニ於テハ方向測定機ノ裝備ハ極メテ必要ニシテ之ノ裝備ノ曉

如何ニシテモ電信員一名ノ増員ヲ必要トス

4. 機関科

特ニ記スベキコトナシ

5. 特務科

特ニ記スベキコトナシ

二. 修理改造其他ニ関スル事項

(1) 船体

(イ) 露天甲板 ↓ 用杖粗悪ニシテ所々裂罅ヲ生ジ或ハ填隙ノ利カサル所

アリテ漏水何所多シ可及的速カナル時機ニ於テ全部修理ヲ要ス

(ロ) 士官及准士官用廁 ↓ 狹隘甚ダ不便ニシテ本艦ノ如キ動搖大ナル艦

ニテリテハ荒天中ニ使用困難ナリ場所ヲ擴大スルカ便器ノ改造ヲ要ス

(ハ) 鍛冶要具格納所 ↓ 現在之無キ為甚ダ不便ナリ新設ヲ要ス

(2) 兵器

方向測定機 ↓ 將來ニ於テモ亦本年度同様ノ任務ニ服スベキ本艦ニ

於テハ方向測定機ヲ装備スルコトハ保安上作業能率上極ニ必要ナリ



第四測量ニ関スル事項

(1) 訓令ニ依ル測量個所数ト實際測量個所ト比較

訓令ニ依ル測量				
採水検温個所	驗流器使用個所	鏟測個所	帆揚げ個所	雲高測定個所
五七	二六			
實際測量				
六五	一八	五	一七	三三
	夜暗濃霧荒天ノタメニ 施行ニ得ガリシモノ多シ			

檢流用浮標八十六本投入セリ

(2) 測量回数ト測量時間

作業別	採水検温個所	驗流器使用個所	鏟測個所	六月(有)		七月		八月		九月(有)		記事
				回数	時間	回数	時間	回数	時間	回数	時間	
	12	6	1	14-02	h-m	0-10	h-m					
	26	5	2	30-57				2-18	9-01			
	17	6	2	20-28						4-24	11-17	
	10	1										
	10-3	1-33										

一五

(3) 特殊測量

- (イ) 阿頼度島東側新成火山高度測量 六月二日施行(記事略)
- (ロ) 千島列島東方海面淺所探測 六月五日及八月二十八日施行

別番第七、A、B 参照

- (ハ) 破浪探礁 七月二十日八月十九日施行 別番第八、A、B 参照
- (ニ) 「ロッカ」岬燈台位置測定 九月二日施行 別番第九参照
- (ホ) 色丹島南東方三百米界線探測 六月十五日施行 別番第十参照

(4) 北洋ニ於ケル海霧ニ般狀況

海霧ニ関スル資料、相當ナル収獲ヲ見之ヲ水路部ニ送付セルヲ以テ  
詳細ニ就テハ、尔後ノ檢討ニ俟ツベキモノナレ共概略ヲ記セバ、如シ

雲高測定箇所	風揚ヶ箇所
1	9
h-m	h-m
0-20	10-29
14	5
4-40	7-54
13	3
4-20	4-33
5	
1-40	

一六

## (1) 海霧の襲来掩蔽の状況

本艦行動海域に於ける霧中航行の状況は別面第二乃至六、七に於て之を示せり。但し全画面中霧の記入ナキ場合ト雖モ附近海面に海霧不存在ヲ示スモノニ非ズ。尚ホ以外航路附近に於て霧因の移動或ハ發生離合極メテ頻繁ナリ加之全行動中晴天ヲ仰ギシ事ハ極メテ稀ニシテ將ニ降下シテ霧トナラントシ或ハ風其他ノ原因ニ依リ海霧ノ上昇シテ成セル濃密ナル層雲ノ存在ハ又之當季節ニ於ける常態ニシテ第一乃至六画面に於て雨霧の何所以外に於て天測ヲナシ得タル時、場合外概ネ此ノ状態ナリ。

## (2) 海霧の濃度

雨ヲ伴フ海霧又ハ粗粒ニシテ移動激シキモノハ稀薄ニシテ視界一杆以上ヲ有スルモノ多キモ細粒ニシテ移動少キモノハ極メテ濃密視界百米ニ滿ラサルモノアリ水道海峡附近ヲ埋ムル海霧及寒暖両海流ノ境界附近ニ

アル海霧ハ往々ミテ濃密ナルモノ多シ

(イ) 海霧ノ高サ

海霧ノ高サハ其ノ時ノ状況ニヨリテ一様ナラズ或ハ上際雲ニ連シルモノアリ又ハ水面上十五米以下ノ所。匍匐スルモノアリ本艦氣象測量中風ニ依リ測定シ得タル上際ノ高サニ就キテ教例ヲ示セバ別表ノ如ク其ノ高度百五十米乃至二百五十米附近ノモノ多シ

月	日	時	間	高サ(米)	月	日	時	間	高サ(米)
六	二	一〇	三〇	八〇	六	一	二	一三	三〇
六	三	〇九	三〇	一九〇	六	二	六	一〇	三〇
六	四	一〇	一五	八〇	六	二	六	一五	三〇

註 氣象計ハ駒橋搭載前檢定ヲ行ヒタル艦内ニテ檢定ヲ行ハズ

海霧ハ上昇シテ濃密ナル層雲ヲ形成ス而シテ其ノ下辺ノ高度ハ百米未満ヨリ三百米程度迄ノモノ多ク暗灰色ニシテ全然太陽ノ光ヲ遮ルモノ多シ

本艦氣象測量中測風氣球ニヨリテ測定セル斯種層雲ノ底面ノ高キヲ示セバ次ノ如シ

雲高觀測記錄

月日	時	觀測位置	測風氣球			月日	時	觀測位置	測風氣球		
			雲ノ底面ノ高キ	上層球ノ高キ	球ノ高キ				雲ノ底面ノ高キ	上層球ノ高キ	球ノ高キ
6-25	1030	43-49N 153-36E	1-57	100	195	7-27	1010	56-8N 171-42W	0-35	200	116
7-4	0652	48-9N 162-30E	1-34	200	313	7-29	1807	55-22N 180-0	0-18	200	60
7-5	0925	47-32N 157-51E	0-34	150	85	7-30	1730	54-19N 173-28E	1-10	200	233
7-5	1040	47-30N 157-35E	0-40	150	100	7-31	0814	54-1N 169-22E	0-50	200	165
7-7	1336	44-58N 147-42E	2-05	100	208	7-31	1530	53-36S 167-51E	0-40	150	100
7-20	1200	42-3N 149-58E	2-20	200	470	8-1	0830	51-40N 164-20E	0-35	200	116
7-26	1340	53-27N 177-26E	2-51	150	427	8-1	1531	51-40N 164-19E	1-12	200	240
7-26	1500	53-43N 173-53W	0-30	200	100	8-3	1020	47-50N 157-47E	1-15	200	250

12

8-3	1540	47-11N 156-37E	1-05	200	216	8-22	1600	50-25N 165-27E	0-54	200	180
8-4	1115	45-15N 153-8E	0-27	200	90	8-25	1700	54-53N 144-31E	0-36	200	126
8-17	0600	42-38N 147-7E	1-10	150	175	8-27	0930	51-29N 157-26E	0-44	200	145
8-18	1300	42-37N 154-37E	0-16	150	40	9-15	0630	44-37N 148-31E	0-55	200	180
8-22	1000	49-40N 164-17E	0-16	200	53	9-16	0800	48-9N 151-35E	0-50	260	161

(二) 海霧性状、変化ニ就イテ

本年度一回ノ測量ヲ以テ判断スルハ、稍々妥當ヲ欠クノ嫌アルモ海霧性状ノ変化ニツキテハ概ネ左ノ如シ

北海道千島沿岸↓本艦測量ノ初期ヨリ八月下旬迄殆ンド其ノ性状ノ変化ヲ認ズ主トシテ細粒ニシテ濕潤ナル濃霧流行ス九月ニ入りテ粗粒ノモノニ會スル機會多ク兩カ霧カノ區別ツキカヌルモノアリ視界ニ從ツテ余リ狭ナルモノナク掩蔽ノ範圍モ八月以前ノモノガ連續廣範圍ニ

巨ルモノ多キニ反シ局所的集团的モノ多シ

曰令海方面↓本艦同方面行動之際(自七月下旬至八月下旬)ニ於テハ屢々小低氣圧ノ東行スルニ會シ粗粒細雨ノ如キ多數ノ霧圓和風乃至疾風ニ乘リテ移動スルヲ見タリ從ツテ全体トシテノ海霧區域ハ相當大ナルヘキモ航海中時々霽レ間ニ會セルコトアリ

太平洋方面↓六月下旬乃至七月初旬北太平洋高氣圧ノ異常ナル發達ヲナセル際(最高七七ハ程以上)其ノ北縁ニ近キ部ヲ行動セル經驗ニヨレバ風速相當大ナルニモ拘ラズ海霧ハ執拗ニシテ時々降雨ノ来リテ之ヲ稀薄ナラシムルノ外廣範圍ニ亘リテ海域ヲ掩ヘリ、只偏北乾冷ノ微々輕風来ル時ハ海霧上昇シ時々晴天ヲ望ムコトアリ

(5) 風ニ關スル実験

氣象測量用風ハ第二回行動終期以後ニ於テ其ノ飛揚浮泛状態屢々不良トナリシヲ以テ之ガ原因探究並ニ改善ノタメ兵科分隊長

一名機関科特務士官一名兵科准士官一名ヲ研究委員トシテ製作其  
他ニツキ研究実験ヲ行ハシメタル結果之が原因ト認ムルモノヲ擧ムラ得  
タリ即チ尤記実験報告ハ委員ニ於テ研究調査セルモノニテ好参考  
資料トアリ

一 実験期日及回数

第一次 八月十七十八日

六回

第二次 九月十五日

五回

計十一回

二 経過概要並ニ成果

(1) 経過概要

実験ニ使用セル風様式ハ別表第三ニ示ス如ク第一號並ニ試製外  
ハ全部原案ニ據ルモノ第一號ハ少シク小型(原案寸法ニ比シ縦横各半  
程小)ノモノ試製ハ風骨維持索鋼線ノ代リニ帆縫系ヲ用ヒタルモノ以上全  
部ヲ五回ヲ使用シ第一次第二次共最初ニ空風次ニ擬製計器



(重量形状略実物と同様モノ)ヲ附着最後ニ本計器ヲ着ケ飛揚  
 実験セリ而シテ試製(凧骨維持索鋼線ヲ帆縫系ニ換ヘタルモノ)  
 ノモノハ全然失敗ニ取リ

(四)成績(別表第二)

試製ヲ除ク外概シテ成績良好ニシテ凧ハ原案寸法ト多少差違  
 アルモ体形ノ歪ミ(骨維持索ニテ自由ニ調整シ得)布張ノ均齊ニ注意  
 シ製作スレバ現在ノモノニテ良シ但シ所見ニテ速ベン凧骨接手金具  
 ヲ強化スルコトハ凧ヲ再三再四分解組立スル上ニ於テ是非必要ナリ

三. 所見

実験回数少ナリ的確ナル成績ヲ得ル能ハザリシモ大体原案寸法依  
 リ確實ニ製作シ餘リ風ノ強カラザル時ヲ選ビ艦速ニ依リ風速又米  
 内外トナシ凧揚機械ノ揚線トラムノ回転速度ヲ自由ニ調節シ得ル

如ク改造使用セバ故障ヲ減少シ充分目的ヲ達シ得ルモノト思考ス  
 尚風ハ格納ノ關係上分解式ナルヲ以テ骨接手金具ハ現在ノ「アルミ  
 ニー」製ニテハ弱ク組立ノ都度変形ヲ来スヲ以テ相當強カナル輕金  
 屬製ナルヲ要ス

二四

別表第一 成績

回次	月日	風番	回数	計器 有無	天候	風速	艦速	今風速	揚線長	角度	張力	成 果
第一 次	8-17	1	1	擬計器	霧	4	原速	9~10	300	45°	8-9	揚線時多少動揺セルニ 上昇後頗ル良好
	8-17	1	2	擬計器	霧	4	原速	9~10	200	41°	4	合 上
	8-17	2	3	擬計器	霧	4	原速	9~10	300	43°	4	合 上
			4	擬計器	霧	4	原速	9~10	200	44°	9~10	揚線時多少動揺セルニ 上昇後甚 卸又時極木骨ニホ折 ル
			5	擬計器	霧	4	原速	9~10	300	42°	9~10	揚線時多少動揺セルニ 上昇後頗ル良好